

一般社団法人日本応用地質学会東北支部 特別講演と討論会のお知らせ

日時：平成23年5月20日(金) 14:00～16:45

会場：(株)復建技術コンサルタント会議室（仙台市青葉区錦町1-7-25, tel. 022-262-1234）

東北支部は、3.11大震災後初の活動として、支部総会後、震災関連の特別講演と3つの話題提供を基にした討論会を開催します。東北支部以外の会員の方の参加も歓迎します。

東北支部は、2003年以来『迫りくる宮城県沖地震に備える』と題して、シンポ、災害想像力シミュレーション(DIG)、出前講座等の活動を展開し、地質・地盤の特徴を理解したうえでの地震防災の有効性を訴えてきました。3.11大地震・震災はその想定をはるかに超える規模でしたが、支部の活動は減災にどれだけ役立ったのでしょうか。また、本震後2ヶ月を経てなお活発な地震活動、地殻変動、および関連する地質災害に対して、応用地質学会には今後どんな活動が望まれるのでしょうか。地震・津波防災に関する議論を深めます。

なお、震災の影響により公共の施設確保ができず、いつもより小さめの会議室(定員60名程度)にて開催しますこと、あらかじめご理解願います。(問合せ先：応用地質学会東北支部事務局：jseg_tohoku@yahoo.co.jp)

○特別講演『地震による山崩れと地質』(14:00～15:15)

講師：千木良雅弘氏(日本応用地質学会会長、京都大学防災研究所教授・地盤災害部門)

千木氏は、日本を含め世界各地の地質・地盤・斜面災害の現場での豊富な調査実績に基づき、それらの調査・研究の成果を多数の著書・論文を通し発信されている。今回の地震後も長野、福島等の斜面災害現場を調査(*注)されており、それら結果も含めてお話をいただく予定です。

討論会「来てしまった巨大地震からの復興に応用地質学はどのように社会貢献するか」(15:30～16:45)

<話題提供>

1. 女川原子力発電所における津波評価と対策(東北電力・三和 公氏)

3.11地震により、女川地区も10数mの大津波に襲われたが、女川原子力発電所は敷地高さが約15mであったことなどから深刻な被害を免れている。同発電所における津波評価では、応用地質学的な調査(仙台平野での津波堆積物の検討)も踏まえて、各種検討がなされている。同発電所の津波評価と対策について、3.11津波の概要とあわせて報告される。

2. 「ぼうひろ」の奇跡から考える津波防災(支部長・東開コン・橋本)(*注)

甚大な津波被害を受けた仙台市荒浜地区で、海岸公園冒険広場(ぼうひろ)の高台は浸水を免れた。かつて沼だった場所が、特異な経緯で盛土・公園化、結果的に津波避難所の役割を果たした。「ぼうひろ」を例として、地盤条件・微地形・浸水高の局所性などから津波防災への応用地質学の役割・有効性を考える。

3. 地震防災シンポと地域への展開活動は効果があったのか(前支部長・太田氏)

東北支部が展開した一連のシンポ後、実際に地域自主防災活動に参加している太田前会長から、今回の震災時の地域活動に、学会支部が伝えてきた知識・知恵がどのように、どれだけ役立ったのか、のこされた課題などについて紹介される。

(*注) 3.11大地震に関する調査結果の速報は、学会HP特設コーナーに掲載中です。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jseg/00-main/110311_earthquake.html